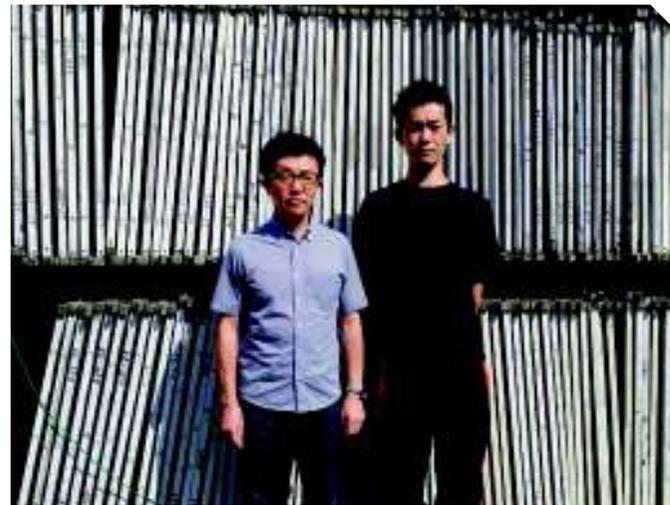




「攻め」の経営で 手捺染のスペシャリストを目指す



山田社長と染職人の森末さん

独自技術と蓄積した ノウハウで 手捺染の相談なら何でも！

ファッショントレンドが目まぐるしく変化する中、直接の得意先である生地問屋に加え、より市場に近いアパレルメーカーと一緒にすることもづくりをすることで、常に最先端のニーズを吸収し、デザイナーのこだわりに応える提案力を磨いている。「こんな要望にも『果敢にチャレンジ』の精神で取り組んできた」と代表取締役の山田靖人さん。



株式会社染のさくら

代表者／山田 靖人
住所／京都市左京区岩倉村松町 26
TEL / 075-791-1215
http://www.sakira-kyoto.jp/

事業内容／手捺染による婦人服地(広幅生地)の染色加工業。独自の水ほかし染めを使って、オリジナルブランド商品なども開発している。

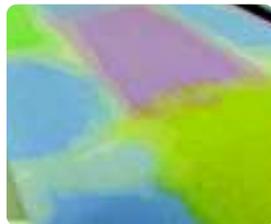
例えば、水ほかしは、水彩画のような色の滲みと重なりが美しい手捺染だが、加工の時期や条件によっても品質にバラつきが生じるため、引き受けてくれる染色工場が少なかつた。同社では、水ほかしに適した糊や染料を独自開発し、温度、湿度、蒸し工程等を徹底的に管理することで、生産現場でのロスを減らし、他社には真似できないオンリーワンの技術を確立することになった。凹凸のあるニット生地に柄を染めてほしい。一反でなく、半反でサンプルを染めてほしい。お客様か

ら難しい注文が舞い込むことも多いが、これまで培ってきた技術やノウハウ、常時ストックされた多種多様な色糊、柄、マスマ見本のバリエーションなどを組み合わせ、「これがほしいかった」というお客様の満足を引き出しつづけている。

メイドイン京都の ブランド開発で B to Bの新たな市場 の掘り起し

今から5年ほど前、手捺染にこだわった自社オリジナルブランド「Lentari」を立ち上げた。水ほかしを中心とした、ポップで明るい色柄のストールや手ぬぐいを豊富に揃える。「京都の職人がこつこつ染めることに価値がある」。

特に、シルクのストールは、一般的には厚さ10匁以上の生地で染めることが多いが、同社では染めムラや汚れが生じないよう特別な工夫を行って、わずか6匁の極薄、軽量の商品を開発することができた。オンライン販売のほか、百貨店などの催事に出展したところ、若い女性層にたいへん人気で、現在では市内のセレクトショップや観光土産店などで取り扱いが広がっている。「独自技術のアピールの場としたい」と山田さんは意欲を示す。



一つひとつ異なる模様美しい「水ほかし染め」



職人が手作業で丁寧に染めている



1,000を超える捺染の型

”どがった”魅力を活用して 様々なツールを活用して 発信

「知恵の経営」報告書の作成に取り組んだのも、自分たちの存在価値を広く知ってもらいたいと思ったのがきっかけだった。市場の縮小や後継者不足などで、染色加工業を取り巻く環境は必ずしも良好ではないが、「だからこそ、岩倉から飛び出

して、どんな情報発信していかなければならない。他社とのコラボにも積極的に、水ほかしの素材を使った座布団などを共同開発し、テキスタイル分野以外にも活路を見出している。

知恵を駆使し、お客様のあらゆる要望を受け止める「攻め」の経営に徹することで、仕事の幅を広げてきた染のさくら。板場は今日も熱気にあふれている。



★Point.1 三位一体のものづくり

生地問屋だけでなく、その前にあるアパレルメーカーと三位一体で、デザイナーの意向やファッション市場のトレンドを吸収し、染色加工に反映する仕組みを構築。スピーディーなものづくりに貢献。

★Point.2 他社が敬遠する仕事も受注

手間ひまがかかる仕事、技術的に難しい仕事も「やってみよう精神」で受注。独自の手捺染技術に加え、蓄積してきた2千種類の色糊、1千種類の柄、多種多様なマスマ見本などを活用して、顧客満足を引き出す。

★Point.3 形を変えて独自技術を発信

水ほかしなど他社では真似できない技術を使って、オリジナルのストールや手ぬぐいなどを開発。異業種とのコラボにも目を向け、従来のテキスタイル分野にこだわらず、自社の存在価値を広く発信。

応援
します！ 経営革新・知恵の経営に取り組む企業のご相談にお応えします。
【相談無料】TEL.075-212-6470
中小企業経営支援センター知恵産業推進室